大学における
ボランティア活動支援に関する
全国実態調査

速報版

調査概要

1 調査目的

・全国の4年制大学・短期大学（以下大学等）におけるボランティア活動支援組織の設置及び運営の実態を知ることを目的とする。
・特に、前回調査では2019年10月から2020年3月と、COVID-19が国内で大流行する以前の内容だったため、今回の調査では、COVID-19の感染症法での5類以降（2023年5月）のボランティア活動支援の再開状況や、新たな取り組み、現状の課題についても触れた。

2 調査主体

・東京ボランティア・市民活動センター（調査業務及び集計は株式会社トリムに、概要版作成はアップワード株式会社に業務委託した）

3 調査方法

・NPO法人教育ソリューション協会が提供している「全国学校データ大学・短期大学」1,106校を調査対象として、郵送によって、各校のボランティア活動支援組織の有無を聞く調査票を配布した。
・調査票の作成にあたっては2019年度に当センターで実施した「大学ボランティアに関する全国実態調査」の質問項目を参考として、現職の大学ボランティアセンター教職員の協力を得て、現状に応じた追加項目を加えて作成した。
・なお、1校にボランティア推進に取り組んでいる部署が複数ある場合は部署ごとに回答を依頼した。

4 主な調査項目

調査票A

①「ボランティア活動支援を主たる業務として担当している」、あるいは「他業務とともにボランティア活動を担当する」部署の有無
②今後のボランティアセンター等の設立予定

調査票B

「調査票A」にて「ボランティア活動支援を主たる業務として担当している」、あるいは「他業務とともにボランティア活動を担当する」部署があると回答された場合のおもな業務内容について

調査票C

①「調査票B」の業務内容の実施状況の詳細について（「事業面」）
②担当部署の「運営面」について

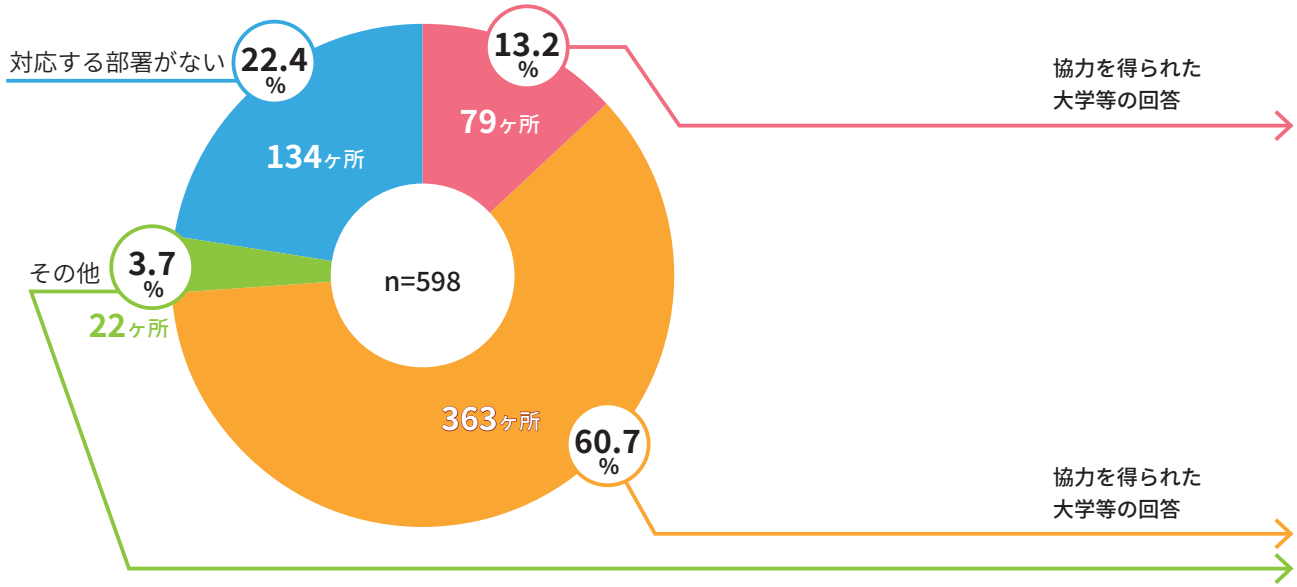
調査期間	2024年10月25日（金）～2024年12月22日（日）
回答方法	Webフォームによる回答
回収数	A票　配布1,106件　回収598件　回収率54.1% （全国1,106校の大学等を対象） B票　配布464件　回収464件　回収率100% （A票に回答した大学等のうち、ボランティア活動を担当する部署がある（主たる業務・他部署と兼務・その他）と回答した大学等を対象） C票　配布464件　回収424件　回収率91.4% （B票に回答した大学等のうち、さらに詳細な調査への回答の協力を得た大学等を対象）

5 倫理的配慮及び COI

調査において発生した情報の収集と利用に関しては、個人が特定できる情報内容に関しては匿名化することを対象者に周知した。また調査結果の公表にあたっては機関が特定できる情報は対象となる機関の同意の上で開示することとした。

A票

学外からのボランティア活動に関する協力依頼等に対応したり、学生に対し、ボランティア情報の提供・ボランティア活動の相談等を担当する部署がありますか？

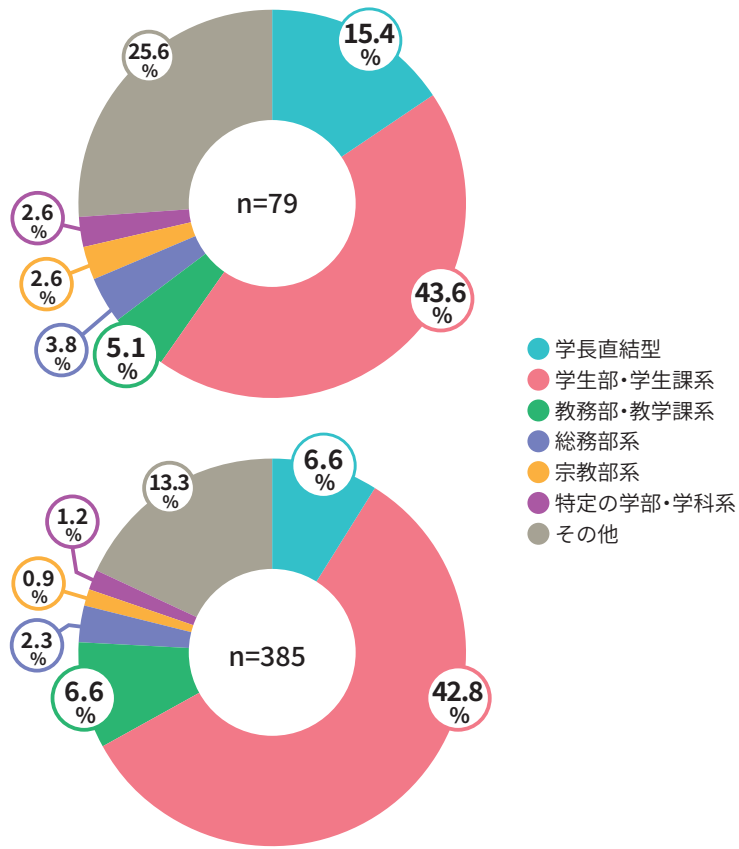


- ボランティア活動支援を主たる業務として担当する部署がある。
  例 ボランティアセンター等
- 他業務とともに、ボランティア活動を担当する部署がある。
  例 学生課や教務課、学生支援センター、地域連携センター等

- ボランティア活動支援を主たる業務として担当する部署がある（79ヶ所・13.2%）
- 他業務とともに、ボランティア活動を担当する部署がある（363ヶ所・60.7%）
- 対応する部署がない（134ヶ所・22.4%）
- **主業務とするセンター等は約13%であり、他業務と兼務する約60%を含めると、回答した大学の7割以上に支援する部署がある。**

C票

その部署は学内の組織・機構においてどこに位置づけられていますか？

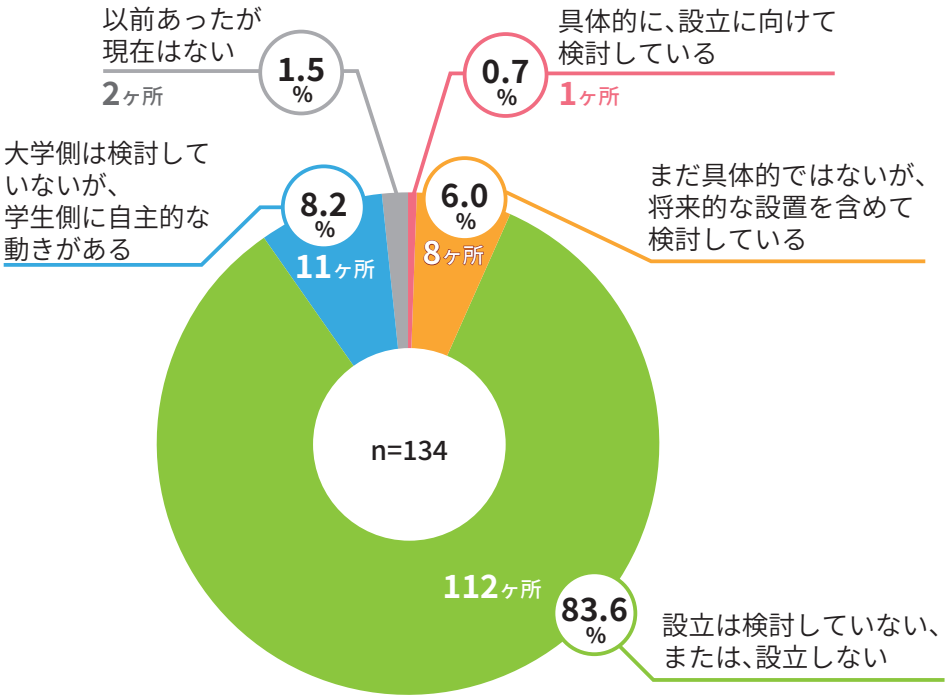


- **いずれの群でも学生部・学生課系が最も多く4割を越えている。**
- **主たる部署の有無別にセンター等の位置づけの傾向は、主たる担当部署がある大学等では、学長直結型が多く、他業務とともに担当する部署がある大学では教務部系がやや多い。**

A票

今後、ボランティアセンター等の設立を検討されていますか？

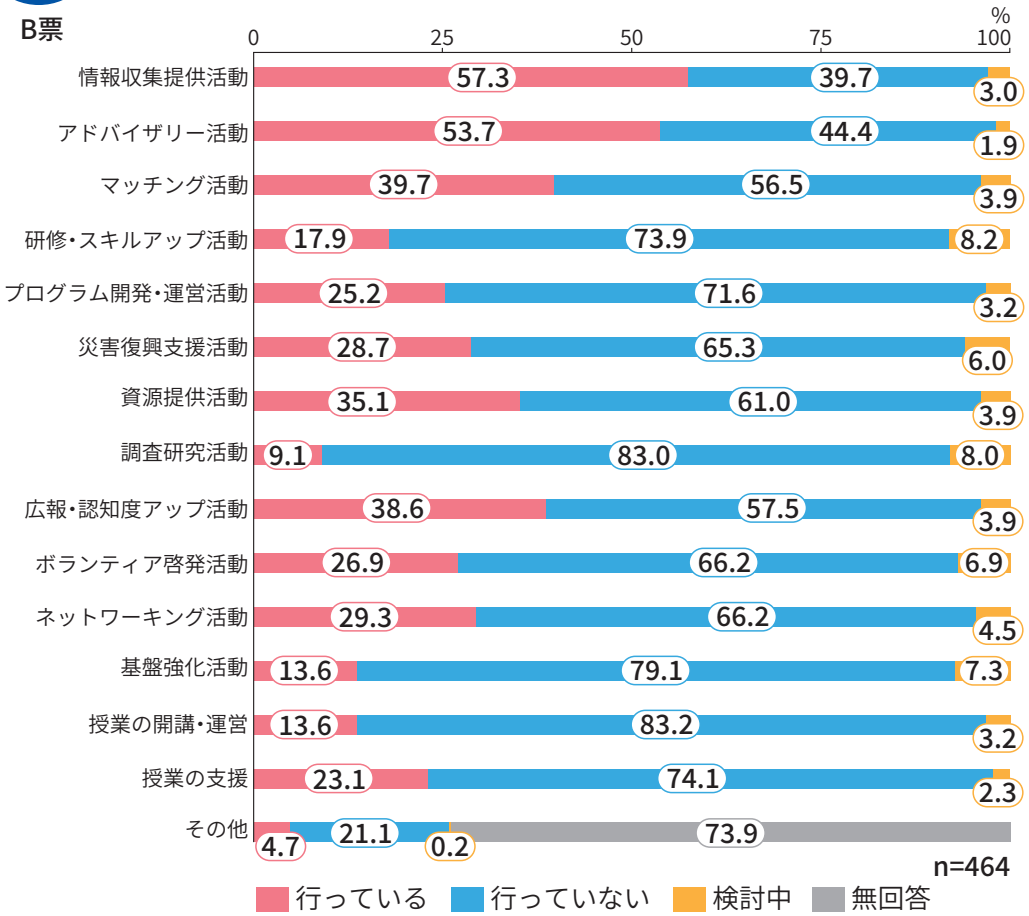
※「対応する部署がない」大学等のみ回答



- 設立しない、または設立を検討していない大学等（112ヶ所・83.6%）
- 何らかの動きや検討が行われている大学等（20ヶ所・14.9%）
- **約15%には設立に向けた前向きな動きがみられる。**

B票

担当部署の業務内容はどのようなものですか？



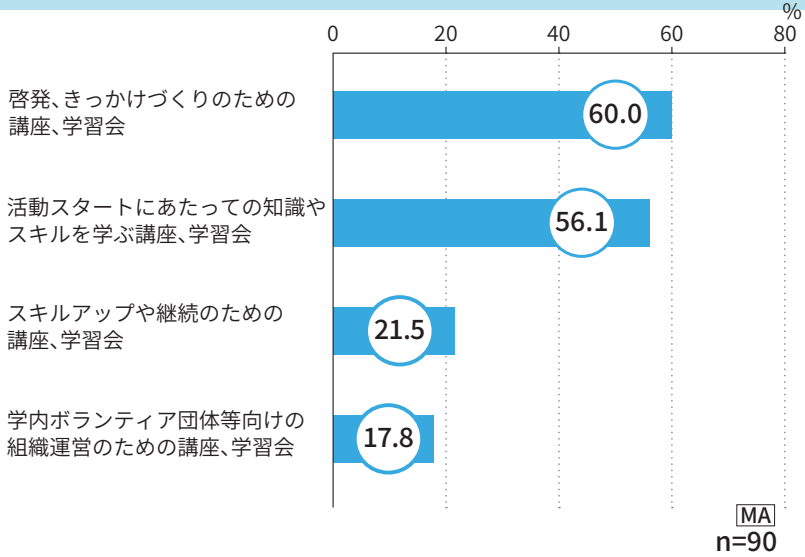
- 最も行われている活動は情報収集提供活動（57.3%）、次いでアドバイザリー活動（53.7%）、マッチング活動（39.7%）、広報・認知度アップ活動（38.6%）と続く。

C票

研修スキルアップ活動の実施状況について該当するものはどれですか？

※実施している大学等の回答のみ

研修スキルアップ活動
ボランティア活動をはじめるために必要な基礎的講座、活動を高めるための技術や組織運営のためのマネージメント・トレーニングなどを企画し提供する活動



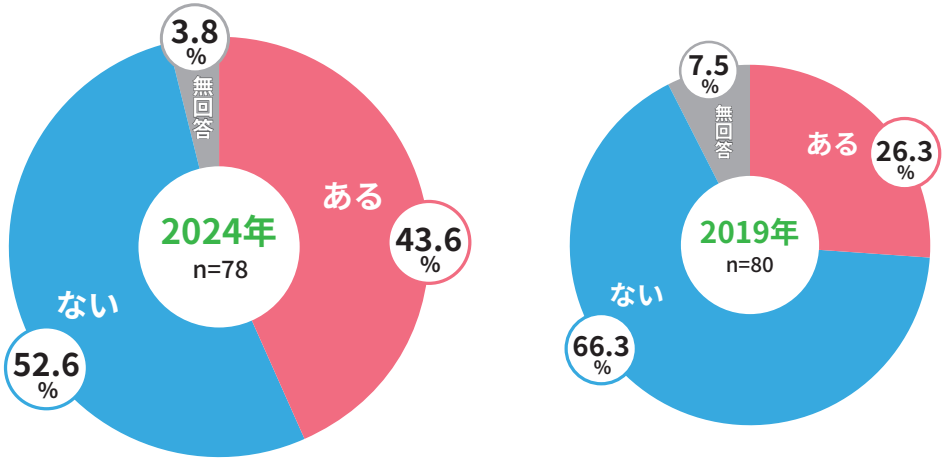
・実施している大学等90ヶ所において、最も多かったのが啓発・きっかけづくりのための学習会であり（60.0%）、次いで活動スタートにあたっての知識やスキルを学ぶ講座・学習会（56.1%）となっている。

C票

プログラム開発・運営活動を実施するにあたり、受け入れ先との協定書、委託仕様書、覚書や取り決めなどはありますか？

※プログラムを実施している大学等の回答のみ

プログラム開発・運営活動
正課の授業以外に、課外活動としてボランティア活動を組み込んだ実践活動プログラムを開発し、体験を通した学びを提供する活動（学生スタッフの企画も含む。センターが実施している正課の授業とは関連しない事業）

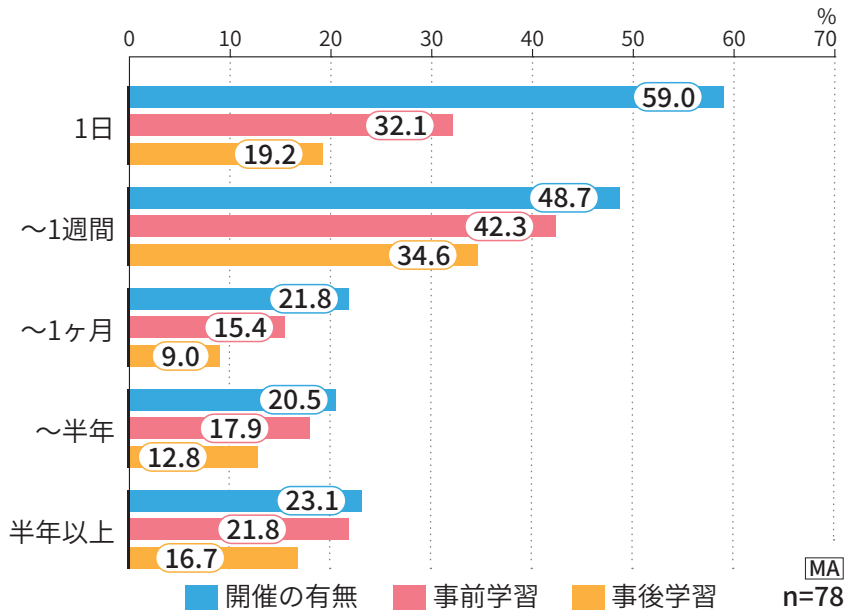


・プログラムを実施するにあたっての、受入先との協定書、委託仕様書、覚書や取り決めなどについては、「ある」大学等が34ヶ所（43.6%）、「ない」大学等が41ヶ所（52.6%）であった。
・2019年調査における回答と比較すると「ある」と回答した大学等の割合が増加していることがわかる。

C票

プログラムの「活動期間」やそれに応じた「事前事後学習」の実施の有無について該当するものはどれですか？

※プログラムを実施している大学等の回答のみ



・開催時期、事前学習、事後学習いずれも1日の開催が最も多く、次いで1週間の開催となっている。

事前事後学習について、工夫していることや特徴は？

※原則として回答の記述通り、一部改変

学生に伝える内容・伝え方

・学生自身が得られることを紹介する。
・活動の目的や社会課題を伝えることで、自身の活動に意義を感じてもらえるようにする。

教員との連携

・その分野の専門の教員がいる場合は、事前学習でのミニ講義を依頼している。

学外の団体との連携

・連携団体の人にご参加いただき、一緒に事前・事後学習を行う。
・活動メニューを実施団体に紹介いただき質疑応答できるようにする。

実施方法

・オンラインでも実施し、遠隔のキャンパスの学生も参加しやすいようにしている。
・レポート提出など、プログラムに応じて、複数の形態で実施。
・学内の他の課外活動と共通のアンケートを使用し、学習成果や変化を測定している。

先輩学生との関わり

・先輩学生に進行等を担ってもらう。
・学生のなかからリーダーを募り、リーダーとともに学習内容を企画。
・継続参加している学生と事前学習の構成に関する打ち合わせを実施し、学生の意見を反映させたグループワークを実施。
・過去に参加経験のある学生から新規学生へ向けて学生のみでの勉強会を実施。

事前学習

・目的や活動の背景にある社会課題の認知、活動に必要な予備知識の学習などを実施。
・事前説明会を開催し、学生主体でプロジェクトを実施。
・連帯感を高めるためのチームビルディングを実施。
・指定の科目の受講を事前学習としている。

事後学習

・単なる「反省会」とならないよう、参加者それぞれの体験・経験を内省化の上、深めるべきテーマを明らかにした上で行う。
・「1dayプログラム」では、別日に事後学習の機会を設けるのではなく、その日の活動時間の中で実施することで、活動におけるハードルを減らす。

成果の発信

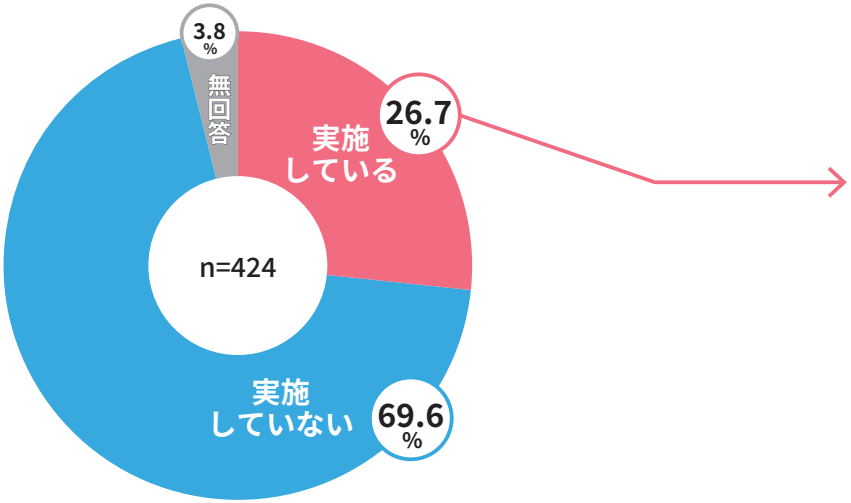
・活動報告会を実施。
・学長、副学長等にも学生の報告を聴いてもらっている。
・参加していない学生・教職員も対象に報告会を実施。
・センター紀要に実践報告という形で査読付き論文の投稿を行っている。

災害復興支援に関わるボランティア活動を実施していますか？

C票

（令和5年度・6年度）

災害復興支援活動
大学の近辺または国内の遠隔地、海外で発生した自然災害に関する救助、復旧、復興、生活支援（精神的支援を含む）などに対して、物的、人的、情報的支援を行う活動



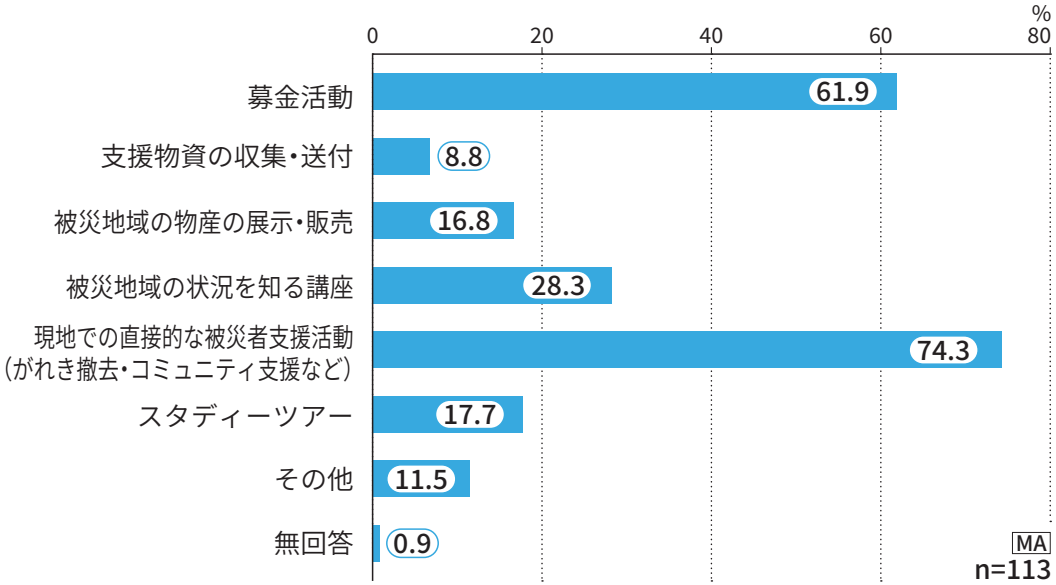
・災害復興支援におけるボランティア活動については、実施している大学等が113ヶ所（26.7%）、実施していない大学等が295ヶ所（69.6%）であった。
・4つに1つの大学等がボランティア活動という観点から災害復興の支援に取り組んでいることがわかる。

災害復興支援として、具体的に実施しているボランティア活動の内容はどれですか？

C票

※実施している大学等の回答のみ

（令和5年度・6年度）

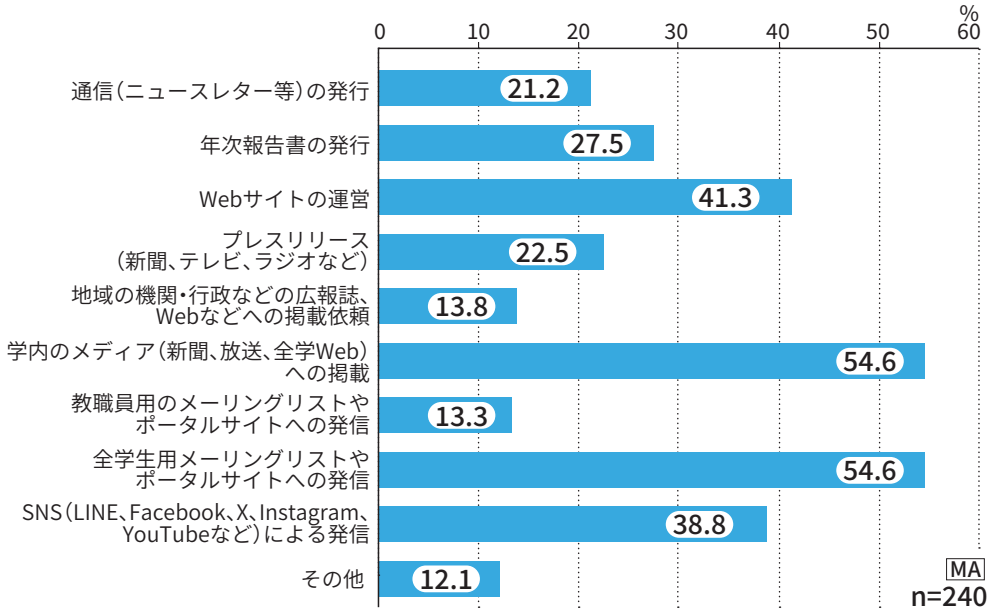


・災害復興支援の内容としては「現地での直接的な被災者支援活動」が最も多く（74.3%）、次いで「募金活動」（61.9%）、「被災地域の状況を知る講座」（28.3%）となっている。

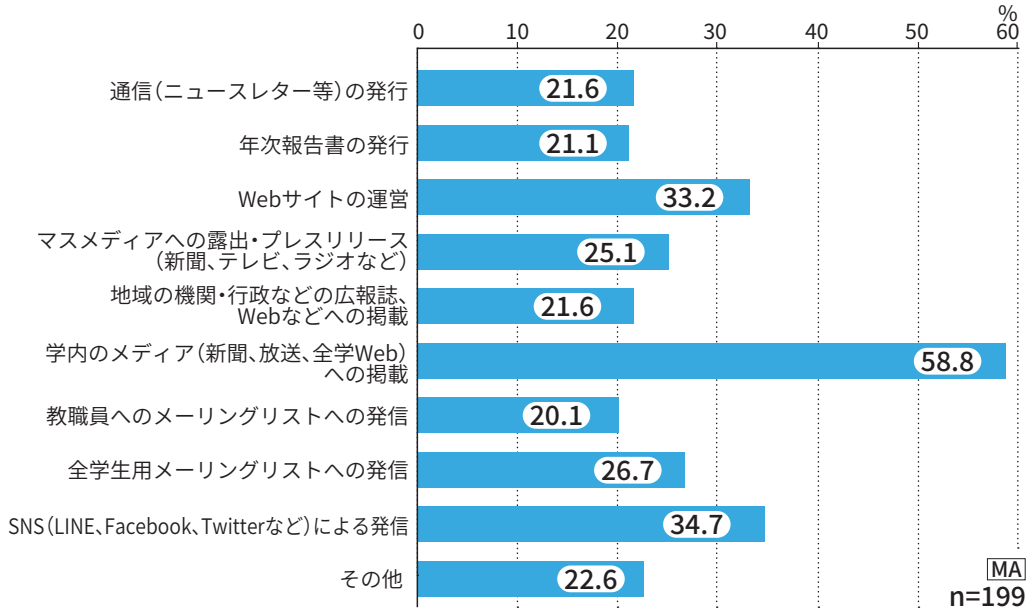
広報・認知度アップにあたり、どのようなツールを活用して、ボランティアセンター等の存在や事業内容を伝える活動をしていますか？

C票

広報・認知度アップ活動
多様なツールを活用して、ボランティアセンター等の存在や事業内容を伝える活動



2024年



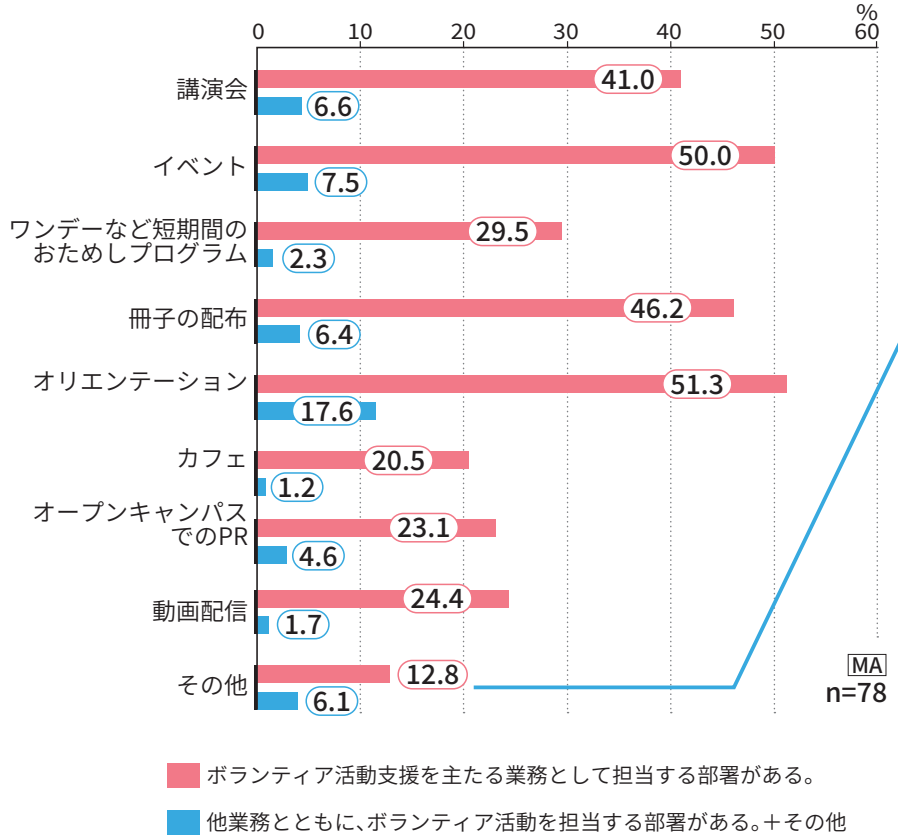
2019年

- センターの認知度を上げるための広報活動を行っている大学等は240ヶ所（56.6%）であり、最も利用されている手段は「学内メディア（新聞、放送、全学Webなど）」が131ヶ所、「全学生用メーリングリストやポータルサイトへの発信」が同じく131ヶ所（54.6%）、次いで「Webサイトの運営」が99ヶ所（41.3%）となっている。
- **前回調査と比較すると、学内メディアの活用が主力となっているのは同様であるが特に、学生に直接的な情報提供を行う、全学生用MLやポータルサイトを活用する率が上昇している。**

学生に対して関心をもってもらうために行っているものは何ですか？

C票

ボランティア啓発活動
ボランティア活動等に関心をもってもらえるような講演会やイベントなどを実施する活動



・学生に関心をもってもらうために行っていることについては、すべての項目で主たる担当部署がある大学等の方が実施率が高い傾向がみられた。

その他の記述

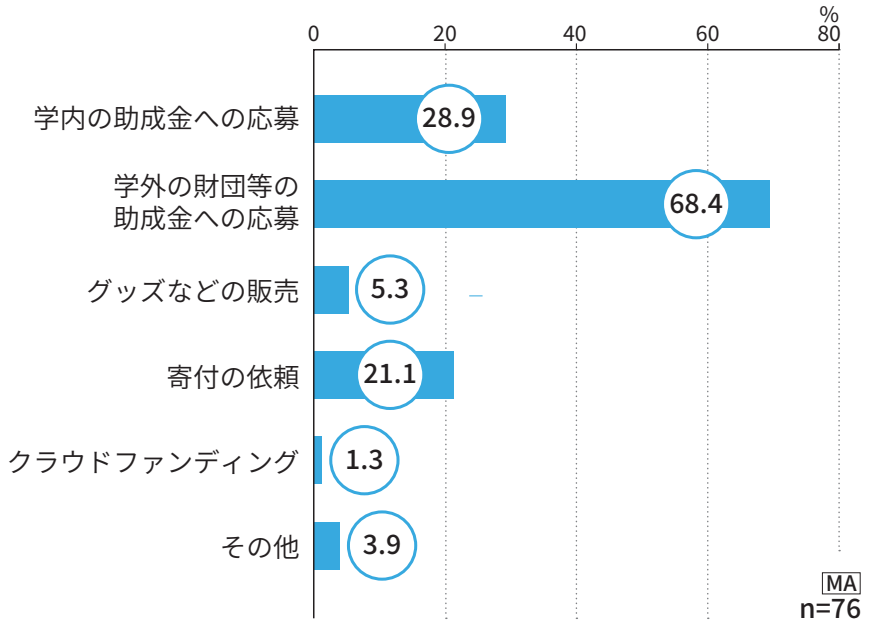
・学内掲示板
・デジタルサイネージ
・ボランティア募集のポスター・チラシの掲示・配置
・地域機関のボランティア講座紹介
・センター企画のボランティア養成講座の実施
・ボランティア入門講座（車いす介助、視覚障がい者誘導介助、認知症サポーター養成講座等）
・授業や講義でのアピール
・大学祭でのPR
・学生団体の活動報告
・募集団体による説明会の実施
・学部でのオリエンテーションでPR活動
・１年生合同授業内での活動案内
・ボランティア情報のメール配信
・SNS
・Instagram
・交流会
・奨励賞の授与

C票

センターの活動を活発化させるために、基盤強化として行っていることはどれですか？

※実施している大学等の回答のみ

基盤強化活動
センターの活動を活発化させるために必要な寄付金や、学内・外の助成金などに応募したり、経営主体に働きかける活動

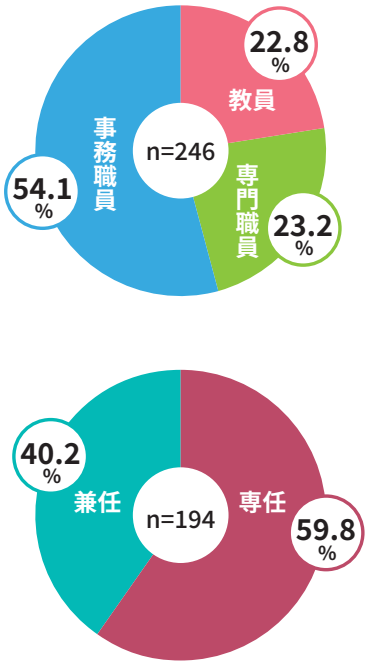


・センター等で自らの基盤強化活動を行っている大学等は76ヶ所（17.9%）であり、その中で最も多い活動は「学外の財団等の助成金への応募」52ヶ所（68.4%）、次いで「学内の助成金への応募」22ヶ所（28.9%）であった。

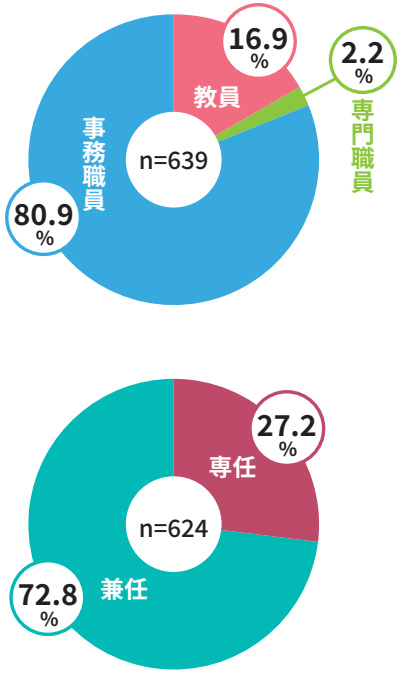
C票

事業執行や予算管理等の事務運営に直接関わっている人の「職種」「業務割合」については、どのような状況ですか？

ボランティア活動支援を主たる業務として担当している部署がある



他業務とともに、ボランティア活動を担当する部署がある

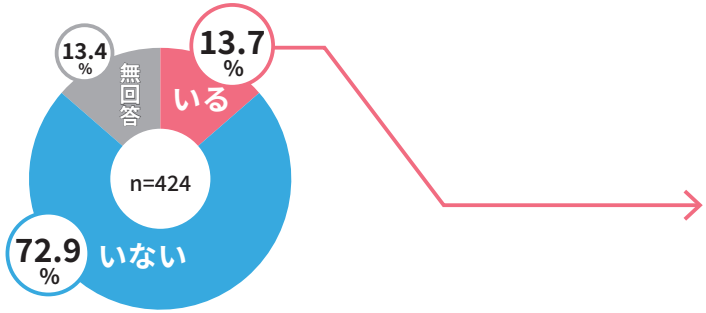


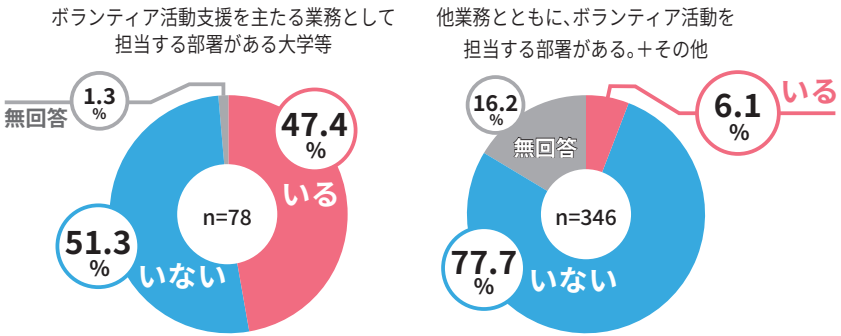
・ボランティア活動支援を主たる業務として担当している部署がある大学等の方が専門職員、専任が置かれている割合が高い。

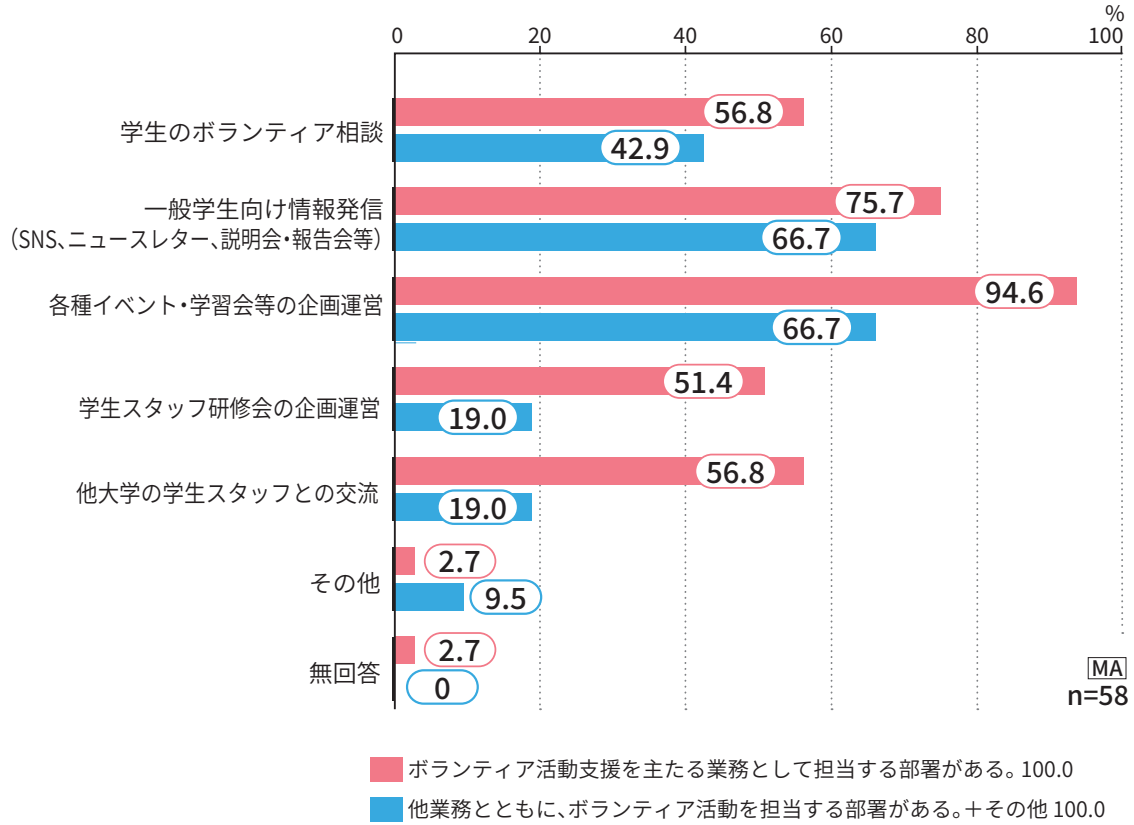
学生スタッフの役割にはどんなものがありますか？

C票

大学ボランティアセンターの事業や運営に継続的に参画している学生スタッフはいますか？







- センター等で学生スタッフがいる場合は、「ボランティア活動支援を主たる業務として担当する部署がある大学等」では47.4%であるのに対し、「他業務とともに、ボランティア活動を担当する部署がある＋その他」の大学等では6.1%である。
- **ボランティア活動支援を主たる業務として担当する部署がある大学等では、学生スタッフがいる大学等が半数近くに及んでおり、センターの活動への学生参加が活発であることがわかる。**

- 学生スタッフが行っている活動内容としては、いずれの群でもイベント・学習会の企画、一般学生向け情報発信、学生のボランティア相談が多くなっている。
- 主たる業務として担当する部署がある大学等では、学生スタッフ研修会の企画や他大学の学生スタッフとの交流など学生による積極的な活動が展開される傾向がある。

センターの体制でコロナ前とコロナ後で大きな変化はありましたか？

※原則として回答の記述通り、一部改変

学内の機運

・活動の中断によって組織に活動に係るノウハウが蓄積されておらず活動に苦慮している。
・学生団体の休部、学内の機運低下。
・学生ボランティア団体が消滅し、コロナ後には設立に至っていない。

学生間の引継ぎ

・先輩から後輩への経験共有や引継ぎが途絶えてしまい、グループ活動の仕方がわからない学生が増えた。
・現在活動している学生たちは一からの取り組みとなり、戸惑っている場面によく遭遇する。

オンラインツールの導入・活用

・オンラインツールの活用が増えた。（イベント開催、定例ミーティング、各種委員会等）Googleフォーム、Forms、説明会のオンデマンド配信、オンラインミーティング、ZOOM。
・ボランティア情報公開の電子化、Teams。

学生の傾向

・高校時代に地域活動等の経験も少なかった学生達なので、徐々に回復してきている感じがある。
・コロナ前と後のギャップの差、影響は大きいと感じています。
・センターに関わる学生が減少。
・泊まりの合宿を嫌がる学生も増えてきた。
・地域の運動会等に参加した際にも、体が触れることに抵抗を感じる学生が多く、学生たちの意識の変化を強く感じた。
・学生プロジェクトの活動の衰退。

職員数の減少

・スタッフ数の減少。
・コロナ前はボランティアコーディネーターや学生スタッフ中心に活動を推進していたが、コロナ以降、不在となっている。

学生スタッフの減少

・学生スタッフ数がコロナを経て激減した。
・コロナ禍を境に学生スタッフが途絶えてしまった。

ボランティア募集の数

多数 ・地域の団体からのボランティア募集の依頼が増えた。
・コロナ前よりもプログラム数は増加している。
・現地参加が増えて、活発になった。
・ボランティア募集依頼の減少（回復傾向）。
・外部ボランティア団体との関係性が途絶えた。
・コロナ前は、様々なボランティア活動を行っていましたが、コロナ禍ではほとんどの活動を止め、現在は他団体主催のボランティアのチラシ等で周知するのみ。

事業面の課題

※原則として回答の記述通り、一部改変

担当部署が担う機能や役割に関すること

・地域からのボランティア依頼に十分に応えきれていない。地域と大学の双方が理解し、歩み寄る関係を続けることが大切と感じる。
・地域との関わりを強化しながら、学生と地域を結ぶ事業を立ち上げたい。
・担当部署でのボランティアについての知識が乏しくノウハウが蓄積されていない。
・学内での協力体制の確立や組織の強化、学生たちが主体的にボランティア活動に取り組めるような仕組みづくりを検討していきたい。
・募集依頼の中には、労働力の代替と見受けられたり、教育的効果が薄かったりといった案件があり、対外的に示せる基準が必要と考えている。
・学校法人からの視点では、メインの事業からは外れるが、担当部署としては、今後学校としての存在意義を生み出す上では重要な事業と認識しており、学校法人への訴え掛けに力を入れているところである。
・学生の意識としては、熱心に活動する学生は一部で、もっと多くの学生がボランティア活動に興味や関心をもってもらえるよう取り組む必要があると感じている。

学生の意識に関すること

・自発的にボランティア活動を企画する学生が年々減少しており大学としてどのような関わりが出来るのかが課題。
・ボランティア活動を継続的に実施したいと思う学生が減ってきているように感じる。
・登録者数に比べ、実際に活動する学生が少ない。
・ボランティアサークルの団体としての活動は積極的、協力的であるが、（登録制の）学生個人の活動には消極的であること。
・コロナ禍において学生によるボランティアサークルの継続が困難となり、復活ないしは新規立ち上げに向けて相談対応の必要性を感じている。
・学内サークルなども仲間内の活動に留まるなど、学生たちの意識を外に向けるのに困難を感じる。
・グループ運営においては、一人の学生が複数の団体（委員会等含む）を掛け持ちをしていることも多く、リーダーを担う学生が少ない。また代替わりが上手く引き継げていない。

職員体制に関すること

・他業務との兼任であるため、人手不足によりボランティア活動に対してあまり力を入れた活動ができていない。
・ボランティアに関するサポートチームを作りたいとは思うが、チームをサポートする大人（教員、職員）が必要であり、どのようにしたらよいかなかなか話が進まない。
・大学の正職員がセンターに不在のため、大学内の情報が入らなかったり、事務手続きがコーディネーターの過重負担になったりしている。
・学生との連絡をスムーズにおこなうためにセンター公式のSNSやLINEの導入を考えているが、コーディネーターが全員嘱託契約雇用（週1－2日勤務）であるために、継続管理が難しく導入できていない。

授業との関係に関すること

・学生たちに「ボランティア活動」に参加する時間的な余裕が減少している（課題、実習、経済的問題によるアルバイト時間の増加）ボランティア活動を紹介しても以前のように参加希望する学生が増えにくい。
・授業以外のボランティアに参加する学生が減少傾向にある。
・サービスラーニングとボランティアが共存している本学では、その違いを明確に理解できる学生は少ないと思います。専門演習の担当教員が指導するサービスラーニングに重点がおかれがちで、ボランティアの無償性に目がいく学生にとって、ボランティアは魅力的な活動になりづらいと感じ、継続には限界を感じています。

資金面に関すること

・大学からの予算では十分とはいえないので、寄付や外部の助成などを活用する方向を探っていきたい。
・災害復興支援プログラムの運営資金（寄付金）の調達。
・学内に学生の交通費支給制度があるが、手続きが煩雑で、ほとんど利用できていない。

運営面の課題

※原則として回答の記述通り、一部改変

職員体制に関すること

・人数が少ないことにより、現状維持が精いっぱいで、メンバーが思い描く活動が出来ない。
・データ・ノウハウ等の引き継ぎ・集約を十分にできていない。
・人事異動や改革により、センター業務のサポートが適切に行われなくなっている。
・求められるスキル、業務における特殊性から担い手となる人材の不足が想定される。
・過去有資格のボランティアコーディネーターが配置されていたが、退職により公募しても適任者がみつからない。
・専門職員と事務職員の業務分担。
・ボランティアコーディネーターが有期雇用であることによる、地域連携・協働関係構築や継続への影響。
・ボランティアコーディネーター経験のある人材のリクルート。
・コーディネーターの雇用が安定していないこと。
・コーディネーターがいないため、活動の幅が狭いことや、外部団体（社会福祉協議会等）との繋がりが希薄である。

学生の様子

・コロナ禍で何もできなかった高校生が大学生になり、ボランティアで社会に出ることを躊躇したり、参加の方法がわからない学生が多くいる。
・「ボランティアをする時間があるならアルバイトをする」や人手不足によりボランティアをする時間的余裕がない（シフトに入ってほしいと言われる）という学生も多い。社会状況や経済問題など複合的な要素が絡み、なかなか改善策が見いだせていない。
・就職活動を意識し始めた3年生が、※ガクチカの充実化目的で当センターに相談に来る傾向がある。しかし本来は1年生のうちから、社会的意義を理解した上で、ボランティアに興味を持ってもらう必要があるため、周知方法・仕組みの再考が課題。
・（授業として開講している学校からの回答）学生は単位を取るためにボランティア活動を行っている傾向がある。もっと自発的な意志をもって、地域や社会のために貢献してほしい。
・短大生は、カリキュラムの関係で四大生より多忙である。ボランティアに対する関心・意欲はあっても、なかなか行動に移せない場合が多い。
・学生が学業等で多忙なため、ボランティアに興味があっても参加・継続まで繋がらないことがある。

運営の悩み

・ボランティアに関する掲示方法等について、模索中。
・内容によって管轄部署が異なることによる情報共有不足。
・教職員への理解、協力が得られていない。縦割りで他部署との連携もまだまだ課題。
・大学正職員不在の運営のデメリット（情報が入らない、各部署や教員との連携がとりづらい）
・学生スタッフの人数が増え、活動スペースの確保などに課題を感じている。
・学内協力者の不足。
・学生のボランティア実施状況の管理が煩雑。
・ボランティア活動を希望する学生が激減している一方で、ボランティアの要請は増えている。

資金面に関すること

・大学からの支援の削減。
・活動の際の交通費の助成金交付の手続きが煩雑で、学生にはほとんど使えない制度になっている。
・活動に出る学生の旅費等の負担が大きい。
・学生の活動資金不足。
・災害ボランティア活動は学生を引率し派遣しており、今回の能登も学生たちは是非とも支援したいと声があがったが、安全面と経費的な面もあり見送った。

※ガクチカ・・・学生時代に力を入れたことの略用。就職活動の際に問われることが多い。

事業・運営をより良くするために他大学等に聞いてみたい・相談したいこと

運営について

センター設立の経緯から、組織体制づくりに取り組んだ一連の流れなど、ヒヤリング・見学させてもらう機会があると助かります。

サービスラーニングとボランティアをどう区別しているのでしょうか。

事業計画づくりについて。（どのように事業を振り返り、分析し、次年度の方針や計画を決めているのか）

ボランティア相談記録の活用方法。

特に多くの意見が寄せられた。組織体制や運営についてヒヤリング、見学したいという意見も。相談記録の活用、運営ノウハウなど、他センターと情報交換したい内容についての記載が見られる。

学生サポートについて

学生が自主的にボランティア活動の企画・運営をするためのサポート方法や体制づくりについて知りたい。

大学が主導しつつも、学生が「自分達で活動・企画を成功させた」という達成感を感じさせ、モチベーションに繋げるための工夫があれば知りたい。

学生スタッフが卒業した後の、当人と何らかの関係性が維持されるかどうか。

参加のきっかけづくりから、継続支援、自発性やモチベーションアップについての内容が多く見られる。

スタッフ体制について

教員の関わりについて、どの程度、どのような形でかかわっているかが知りたい。

専門職員と事務職員の分担について、どうされているか。

コーディネーターの雇用形態。

専門職員と事務職員、雇用形態による役割分担についての記載が見られる。

広報について

効果的な広報・PR方法について。

学生にボランティア情報を発信するときに工夫していること（学生からTeamsも見ない、掲示版も見ないと言われる）があればお聞きしたい。

情報発信の工夫や効果的な広報についての記載が見られる。

資金面について

学生がボランティア活動する際の「活動費」について各大学でどのような支援や予算を組んでいるのかを聞いてみたい。

ボランティア参加のネックとなるのが交通費だと感じている。大人数の場合の送迎バスの支援はしているが、個人に公共交通機関の運賃やガソリン代の支援をしている大学があれば、どのように運用しているのかお聞きしたい。

交通費など活動にかかる費用についてや予算等についての記載が見られる。

東京都共同募金会の配分金を受けて作成しました。